

原子力空母の配備を問う2024キャンペーン



3,000人 市民アンケート 報告集



2024.12.10

原子力空母母港化の是非を問う住民投票を成功させる会

〒238-0008 横須賀市大滝町1-26 清水ビル3階
横須賀市民法律事務所方 電話:046-827-2713 FAX:046-827-2731

経過説明

これまでの動き

●2005年10月

日本政府は米海軍横須賀基地へ原子力空母配備を発表。当初、市長も市議会も原子力空母配備に反対し、通常艦配備を求めましたが、日米政府の強い働きかけがあり、市長は2006年6月、市議会全員協議会で配備を容認しました。これに対し市民有志は、横須賀の将来にわたる重要問題と受け止め、配備は市民の総意で決定すべきと「住民投票」実施を求める運動に踏み切りました。

●2006年10月

「原子力空母母港化の是非を問う住民投票を成功させる会」が結成され、市内で活動する平和団体、組合、政党及び政治団体などが中心となり呼びかけ、多くの市民が当会への活動に参加しました。

●2007年2月

住民投票条例直接請求運動は、横須賀では初めての取り組みでしたが、市内各地で地域集会を行い、学習会を重ね、受任者（署名を取れる人）を増やしました。事務所を開設し、駅・街頭での署名活動、親しい人への声掛け、戸別訪問等これまで市民運動や政治活動に関わりのなかった人までも参加し、市内全域で署名活動が行われました。41000筆の署名を集め、市議会へ提出しましたが、市議会は条例案を否決しました。

●2008年5月

原子力空母入港が差し迫る中、当会は「もう一度、何度でも」と2度目の住民投票条例直接請求運動を行い、前回より受任者・署名数を増やし、52000筆の署名を市議会へ再提出しました。しかし市議会は条例案を再び否決。

●2008年9月25日

市民の意向は問われないうまま、原子力空母ジョージ・ワシントンが横須賀に配備されました。

配備翌年から横須賀基地内での定期修理が始まり、修理で発生した放射性廃棄物の搬出が行われました。エードメモワールによって、日本での修理は行わないとされていましたが放射性廃棄物の艦外搬出は毎年繰り返されています。

●2011年3月11日

福島原発事故発生。市内でも大きな揺れを感じ、横須賀港内でも水位が上がるほどでした。一方、ロナルド・レーガンは福島沖で災害援助（トモダチ作戦）を行いました。その際に被ばくした乗組員は損害賠償訴訟を起こしています。

●2015年10月1日

原子力空母ロナルド・レーガン入港。横須賀配備7年経過したジョージ・ワシントンから、新たにロナルド・レーガンが配備されました。当会では単なる交代でなく、原子力空母母港の恒久化にとらえ、改めてこのまちの民意を確認されるべきと考え、「10000人市民アンケート」を実施しました。

直接市民との対話で回答を頂き、YES/NOだけでなく原子力空母に関してのご意見を記入いただくことで、横須賀のまち・暮らし・平和について市民の思いを受け取りました。

原子力空母の配備を問う 2024キャンペーン

再配備

原子力空母2艦目のR.レーガン配備から8年、再びG.ワシントンが横須賀へ配備されることが2023年4月に発表されました。

当会では、原子力空母の安全性が情報公開されないまま再配備されることに懸念し、2024年改めて市民アンケートを行いました。4230名の方よりご回答いただき、1184名の方がご意見を記入してくださいました。

この報告集をお読みいただき、原子力空母について、横須賀のまちづくりについて、また当会の今後の活動についてもご意見をお寄せください。

このまま
ずっと
原子力空母の
いるまちで
いいですか？



原子力空母母港化の是非を問う住民投票を成功させる会

朝日新聞、2024.1.10

「原子力空母」 市民の意思は

あすキックオフ集会

いつまでも「原子力空母のいるまち」でいいの？

横須賀市の米海軍横須賀基地に配備されている原子力空母が今年後半に交代するのを機に、市民団体がその是非を考えてもらうキャンペーンを始める。「市民の意思は何も聞かれていない」とも疑問を呈し、21日に集会やアンケートなどについて話し合うキックオフ集会を開く。

「原子力空母母港化の是非を問う住民投票を成功させる会」によると、初めて配備された際には、是非を問う住民投票を求める直接請求があり、市も説明会を開いて市民の関心が高まったという。共同代表の呉東正彦さんは「市民の声を聞かずに既成事実のように交代が進められるのはおかし

い。現在の市民の関心がどれほどなのかをつかみ、意思を訴えたい」、同じく共同代表の新倉裕史さんも「米軍の軍事戦略に組み込まれ続けるまちでいいのだろうか」と話す。

会は6月にかけて市内5地区で集会を開き、原子力艦事故に対する安全対策が十分なのかといった議論を深めていく。また、市民アンケートを実施し、賛否などを問う予定だという。

キックオフ集会は午後1時半から横須賀市生涯学習センター（5階大学習室）で。無料。

（呉志堅直）

地域集会

語り合う

意見広告

伝える

アンケート

聞く

2024市民アンケート・活動報告

●全体集会

- 1月21日 キックオフ集会
- 8月24日 アンケート集計結果報告会

●会員へのお知らせ

- 12月19日 ニュース発送
- 2月16日 ニュース発送

●地域集会

- 3月3日 産業交流プラザ
- 3月9日 久里浜コミュニティセンター
- 3月16日 浦賀コミュニティセンター
- 3月17日 三笠教会
- 3月20日 田浦コミュニティセンター
- 3月23日 はまゆう会館

●ラジオFM放送

- 5月15日 FMブルー湘南

●タウンニュース(全6回)

- 2/23, 3/29, 4/19, 5/10, 5/31, 6/14

●SNS

- Facebook、X(Twitter)

●印刷物

- キャンペーン冊子 1000部
- 振込チラシ 10,000部

●ネットアンケート

- GMO
- クラウドワークス

●街頭アンケート

街頭アンケートは4月6日から6月28日、横須賀市内主要駅頭で実施した。実施回数は22回、参加者は延べ300名だった。

日にち	場所	参加者	回答数	
4月	6	汐入駅	20	107
		京急久里浜駅	11	60
	7	横須賀中央駅	20	83
	10	衣笠駅	19	152
	14	浦賀駅	14	61
	17	北久里浜駅	14	79
	21	横須賀中央駅	17	60
	24	追浜駅	12	146
	29	汐入駅	12	60
5月	10	県立大学駅	11	40
	16	衣笠駅	13	72
	20	横須賀中央駅	12	48
	23	追浜駅	10	106
	25	汐入駅	14	58
	29	馬堀海岸西友前	10	70
	6月	4	京急久里浜駅	7
16		横須賀中央駅	17	58
19		衣笠駅	12	76
24		追浜駅	12	104
26		汐入駅	8	33
27		馬堀西友前	13	79
28		横須賀中央駅	2	9

2024アンケート用紙



原子力空母の配備を問う 市民アンケート にご協力ください

— 原子力空母母港化の是非を問う住民投票を成功させる会 —

原子力空母ジョージ・ワシントンへの交代前に、市民の声を、横須賀市・日米政府へ発信していくため市民アンケートを行っています。あなたの意見をお寄せください。

- ・ ご回答はお一人1回でお願いします。
- ・ 下記のいずれかに○をつけてください。

1. 横須賀に原子力空母が配備されていることを知っていますか？

- ① () 知っていた ② () 知らなかった

2. 原子力空母に関する米軍・日本政府や横須賀市の安全対策をどう思いますか？

- ① () 十分 ② () 不十分 ③ () わからない

3. 横須賀に原子力空母が配備されていることについて、どう思いますか？

- ① () 賛成 ② () 反対 ③ () どちらともいえない

4. そのほか、原子力空母に関するあなたのご意見をご記入ください

.....
.....
.....

● ご記入いただいたあなたの

性別 ①()男性 ②()女性 ③()その他・無回答

住居 ①()横須賀市内 ②()横須賀市外

年齢 ①()10代 ②()20代 ③()30代 ④()40代 ⑤()50代
⑥()60代 ⑦()70代 ⑧()80代 ⑨()90代以上

ご記入日 2024年 月 日

ご協力ありがとうございました

【 アンケート提出方法 】

- ・ 郵送 〒238-0008
横須賀市大滝町 1-26 清水ビル 3階
横須賀市民法律事務所

・ FAX 046-827-2731

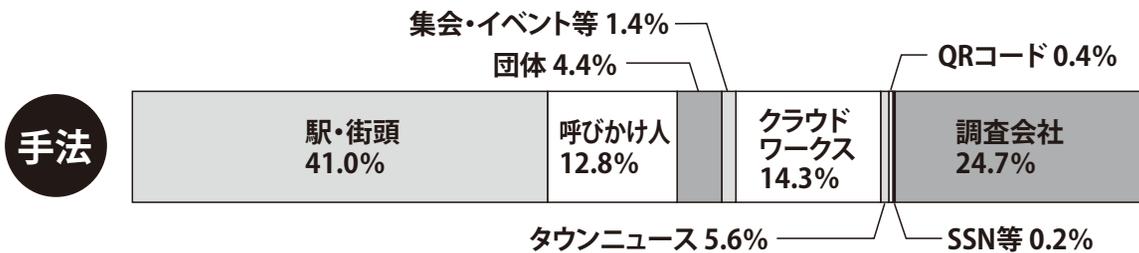
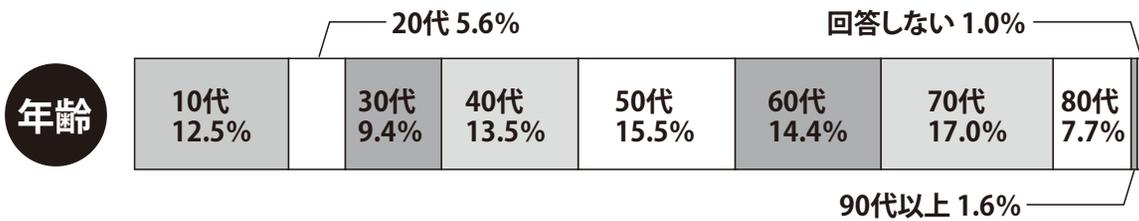


・ QRコードからも回答できます

アンケート集計

アンケート総数は4,230通

「3,000人市民アンケート」は2024年4月6日にスタートし、6月末日に閉め切られました。アンケート総数は4,230通。性別、地域、年代比は以下の通りです。



アンケートは、いくつかの手法を組み合わせ実施しました。最も多いのは駅頭での聞き取りで、全体の41.0%。調査会社に依頼した分が24.7%。クラウドワークスを使っのアンケートが14.3%です。

「呼びかけ人」はアンケートの趣旨に賛同された方が、周辺で聞き取ったものです。

団体や集会、イベント等で聞き取ったアンケートも回収されましたが、参考意見とし、集計には含みませんでした。

アンケート集計

1

横須賀に原子力空母が配備されていることを
知っていますか？

全体

知っていた 68.6%

知らなかった
31.4%

性別

男性

知っていた 72.6%

知らなかった
27.4%

女性

知っていた 64.3%

知らなかった
35.7%

その他・
回答しない

知っていた 62.9%

知らなかった
37.1%

年代別

10代

21.8%

78.2%

20代

46.9%

53.1%

30代

50.4%

39.6%

40代

69.9%

30.1%

50代

77.3%

22.7%

60代

85.9%

14.1%

70代

89.5%

10.5%

80代

87.4%

12.6%

90代以上

84.6%

15.4%

回答しない

70.7%

29.3%

コメント

原子力空母が横須賀に配備されていることを「知っている」は68.6%。「知らなかった」は31.4%。「知っている」は、男性の方が8ポイントほど高かった。

年齢別に見ると、「60代」、「70代」、「80代」の「知っている」は80%を超えていたが、「10代」の「知っている」はわずか21.8%と、大きな違いがあった。

アンケート調査者からは、若い人は空母そのものがイメージできない人が多いという声が寄せられていた。

アンケート集計

2 原子力空母に関する米軍・日本政府や横須賀市の安全対策をどう思いますか？

全体

十分 16.9%	不十分 34.3%	わからない 48.8%
-------------	--------------	----------------

性別

男性	24.6%	32.1%	43.2%
女性	6.3%	37.3%	56.4%
その他・ 回答しない	15.7%	34.3%	50.0%

年代別

10代	14.3%	13.3%	72.4%
20代	18.9%	23.7%	57.5%
30代	30.6%	23.6%	45.9%
40代	21.6%	32.1%	45.4%
50代	16.7%	32.9%	50.4%
60代	13.6%	44.7%	41.8%
70代	10.2%	53.6%	36.2%
80代	8.5%	45.1%	46.4%
90代以上	11.5%	26.9%	61.5%
回答しない	19.5%	26.3%	51.2%

コメント

安全対策に関して「十分」は16.9%、「不十分」は34.3%だった。安全対策の内容が「わからない」という市民は48.8%と半数近かった。

安全対策の内容が「わからない」と「不十分」とを合わせると8割を超え、原子力空母の配備から16年たった今も、市民への情報提供が不足していることの表れと言えるだろう。とくに10代の「わからない」は72.4%と高く、配備後の関連情報の空白が反映していると思われる。

アンケート集計

3 横須賀に原子力空母が配備されていることを どう思いますか？

全体

賛成 23.8% 反対 30.1% どちらとも言えない 46.1%

性別

男性	34.0%	24.9%	40.1%
女性	9.5%	38.8%	51.8%
その他・ 回答しない	17.1%	40.0%	42.9%

年代別

10代	21.5%	17.6%	60.9%
20代	24.1%	22.8%	53.1%
30代	36.8%	22.3%	40.9%
40代	29.5%	25.2%	45.3%
50代	24.4%	24.4%	51.2%
60代	22.6%	35.8%	41.6%
70代	13.8%	50.9%	35.3%
80代	12.3%	47.6%	40.1%
90代以上	11.5%	53.8%	34.6%
回答しない	17.1%	34.1%	48.8%

コメント

原子力空母の横須賀配備に関しては、「どちらとも言えない」が最も多く46.1%。「反対」は30.1%で、「賛成」の23.8%を上回った。

「賛成」は男性で多く34.0%で、女性「賛成」9.5%の3.5倍だった。

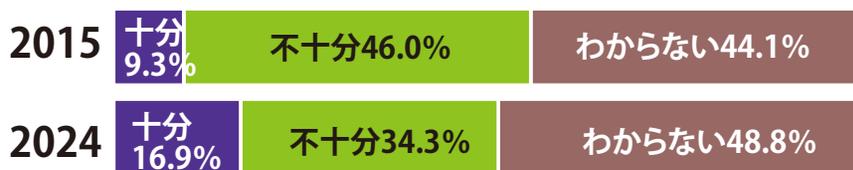
「賛成」が「反対」を超えたのは10代、20代、30代、40代。「反対」が最も多い回答だったのは70代、80代、90代以上だった。

原子力空母の交代を問う市民アンケート 2015年と2024年の比較

①横須賀に原子力空母が配備されていることを知っていますか。



②原子力空母に関する米軍・日米政府・横須賀市の安全対策をどう思いますか。



③横須賀に原子力空母が配備されていることについて、どう思いますか。



今回のアンケート結果と、2015年に実施した「1万人アンケート」の結果を比較すると、以下のような特徴があった。

①原子力空母が横須賀に配備されていることを「知っている」は70.9%で、2015年の49.7%を大きく上回った。

②「安全対策について」は「わからない」が一番多く48.8%とほぼ半数。「十分」と答えた市民は16.9%だったが、2015年の9.3%からは増えている。

③配備の賛否に付いては、「どちらとも言えない」が最も多く46.1%。反対(30.1%)は賛成(23.8%)を上回った。

2015年アンケートでは「どちらとも言えない」

36.0%、「反対」49.7%、「賛成」13.7%だった。「反対」が減った分「どちらとも言えない」が増えているように思える。

「配備を知っている」は、2015年のアンケートから、21ポイント、1.4倍も増えている。配備を知る人は増えたのに、「知っている」は「反対」にはつなげていない。それはなぜか。

10代では原子力空母の配備を「知らない」が80%にせまった。国や市の安全対策を「わからない」も70%を超えている。

米海軍や横須賀市、国の情報提供のなさが大きく関係していると思うが、運動に責任がないとは言えないだろう。

記入意見(コメント)、「配備の賛否」の分類結果

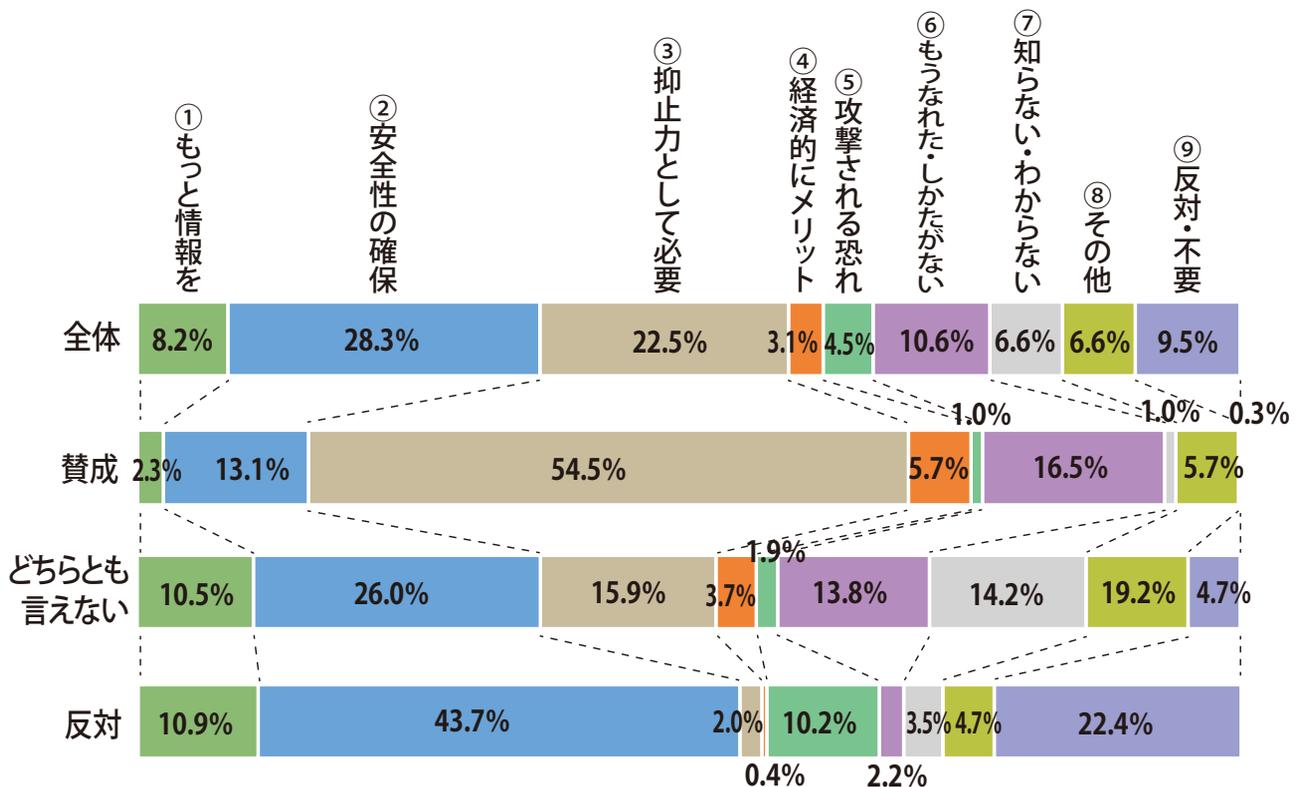
アンケートの最後の質問は、「ご意見をお書きください」です。

1184名の方が、1304の「意見」を記入してくれました。

頂いた「ご意見」の内容を9項目に分類し、集計しました。

	①もつと情報を	②安全性の確保	③抑止力として必要	④経済的にメリット	⑤攻撃される恐れ	⑥もう慣れたしかたがない	⑦知らないわからない	⑧その他	⑨反対・不要	コメント者数	コメント総数
賛成	9 2.3%	51 13.1%	211 54.5%	22 5.7%	4 1.0%	64 16.5%	4 1.0%	22 5.7%	1 0.3%	339	388
どちらとも言えない	49 10.5%	121 26.0%	74 15.9%	17 3.7%	9 1.9%	64 13.8%	66 14.2%	43 9.2%	22 4.7%	455	465
反対	49 10.9%	197 43.7%	9 2.0%	2 0.4%	46 10.2%	10 2.2%	16 3.5%	21 4.7%	101 22.4%	390	451
合計	107 8.2%	369 28.3%	294 22.5%	41 3.1%	59 4.5%	138 10.6%	86 6.6%	86 6.6%	124 9.5%	1184	1304

※コメント内容が多岐にわたり、どうしてもひとつに決めかねる場合、当てはまる複数の項目に振り分けた。



記入意見の分類から見えてくるもの

記入意見(コメント)「全体」の順位

①	安全性の確認(原子力不安)	369
②	抑止力として必要	294
③	もう慣れた・しかたがない	138
④	反対・不要	124
⑤	もっと情報を	107
⑥	知らない・わからない	86
⑦	その他	86
⑧	攻撃の恐れ	59
⑨	経済的メリット	41

記入意見(コメント)「どちらとも言えない」の順位

①	安全性の確保(原子力不安)	121
②	抑止力として必要	74
③	知らない	66
④	もう慣れた・しかたがない	64
⑤	もっと情報を	49
⑥	その他	43
⑦	反対・不要	22
⑧	経済的にメリット	17
⑨	攻撃される恐れ	9

記入意見(コメント)「賛成」グループの順位

①	抑止力として必要	211
②	もう慣れた・しかたがない	64
③	安全性の確保(原子力不安)	51
④	経済的にメリット	22
⑤	その他	22
⑥	もっと情報を	9
⑦	攻撃される恐れ	4
⑧	知らない	4
⑨	反対・不要	1

記入意見(コメント)「反対」グループの順位

①	安全性の確保(原子力不安)	197
②	反対・不要	101
③	もっと情報を	49
④	攻撃される恐れ	46
⑤	その他	21
⑥	知らない	16
⑦	もう慣れた・しかたがない	10
⑧	抑止力として必要	9
⑨	経済的にメリット	2

最も多い「意見」は、「安全性の確認(原子力不安)」で、全体の28.3%。次に多かったのが「抑止力として必要」で22.5%。

2015年の「一万人アンケート」では、「原子力危険+安全対策の徹底」46.4%だったので、今回、第1位ではあったがほぼ半減したことになる。数値的には、その分「抑止力として必要」が2015年の6.5%から大きく増えている。



「経済的なメリット」に言及する「意見」は、今回9番目で、3.1%と少なかった。2015年でも4.3%で、原子力空母容認の大きな要素とはなっていないことが見えてくる。

ただし、「賛成」グループでは、「どちらとも言えない」や「反対」より数値は高い。



「配備賛成」グループの1位は、「抑止力として必要」(54.5%)で、過半数を超えた。2位は「しかたがない」(16.5%)。3位は「安全性の確保」(13.1%)だった。

注目したいのは、「賛成」グループでも「安全性の確保」が第3位だったこと。「賛成」ではあるが、「安全性の確保」は条件とされているようにも見える。

「賛成」、「どちらとも言えない」、「反対」の上位3位を見ても、市民の多くは、「安全の担保」の必要性を感じているようだ。



「もう慣れた・しかたがない」は「賛成」で2位・16.5%、「どちらとも言えない」でも4位・13.8%だった。積極的な理由があつての「賛成」ではなく、「あきらめ」からの「賛成」だとすると、それとどう向合うかが、やはり課題といえるだろう。

原子力空母の横須賀配備を

●「自由記入欄」へのコメントからの抜粋

知っていた

- 基地があることが心配。関心を持ってニュースを見ている。(70代女性)
- 少し不安有り。空母などがあっても不思議とは思わず大人になった。(40代女性)
- 原子力空母はあくまで動力なので原子力発電所と同じ扱い、非核三原則にも当てはまらないと思います。(20代男性)
- 以前はニュースでとりあげられたが、今はあたりまえになりつつある。横須賀に基地がある為しかたないと思う。(50代女性)
- 市民への広報など周知が不明。どこで何を誰が知らせているのか。情報の公開を望みます。(70代女性)
- 空母も基地もある意味危険ですが、あるがままに受け入れるしかありません。どこかに配備しなくてはいけないのですから。昔からの基地なので仕方ない。(70代女性)
- 原子力空母の事は耳に入っていたがイマイチわからなく。今回のアンケートで大まかにだが大変な事案である事がわかった。(60代女性)
- 中学の授業で習った。時と場合により必要か不必要かは判断がつかない。(10代女性)
- 子育て世代の横須賀離れの要因になっていると思う。(50代)
- 横須賀に米軍がいるのが当たり前で、付随するものも当たり前

- 思ってしまった。(60代女性)
- 横須賀に生まれたからしかたがないと思うこともある。(80代女性)
- あまり大きく報道されないので、安全評価も出来ないし、必要性についても説明不十分。もっと関心を持つ人が増え、一部に都合の良いことだけではなく、リスクや不都合な情報も知らされるべきだと思います。近隣住民だけでなく日本全体の問題として広く知られると良い。(50代女性)
- あまり身近に感じない。(80代女性)
- 学校で教えてほしかった。(10代男性)
- 原子力空母がどういうものか、市民の多くがわかっていない。そこが本当の恐怖です。(50代男性)
- 原子力空母の配備にかかわらず、自衛隊もアメリカ軍の基地も不要と考える。個人的には、ベース開放イベントに足を運ぶ方たちにも原子力空母の危険性を知ってほしい。(40代男性)
- 基地や空母、横浜のノースドックのこと軍事輸出のことなど、関心の有無にかかわらず誰もが知ることが必要だと思う。(60代女性)
- 大地震が起き、原子力空母の事故が起きた時、すぐに市民に知らせられるのか不安です。(60代女性)
- 日本は戦争をしない憲法9条を持つのに空母などいらぬ。(70代男性)

知らなかった

- よくわからない。詳しく教えてほしい。(30代女性)
- 単純に怖いと思う。このような空母が配備されているという情報はもっと国民に発信してほしいです。(40代女性)
- そもそも横須賀に原子力空母が配備されていることをどれくらいの国民が知っているのか知りたい。自分はこのアンケートで初めて知った。もっと公にして国民の意見をしっかりと聞き入れるべきだと思う。(40代男性)
- どこにあるかわからなかった。(10代女性)
- みんなに知ってほしい。(10代男性)
- 何も知らされてない。(60代男性)
- 興味がない。(40代男性)
- 知らない人も多いと思うので発信していくべきだと思う。(20代女性)
- 戦争に巻き込まれるのはイヤだ。(10代女性)
- 難しい問題で考えたことがありませんでした。(40代女性)
- そもそも原子力空母がなにかよくわかってない。市民はもっと知るべきだし、詳しい説明が欲しい。(30代女性)
- 今回初めて知った。もっと現子力空母の事を知りたい。(50代女性)
- 全然知らなかったのでの質問もわからない。(20代女性)

原子力空母の安全対策は

十分

- 米軍基地は防衛政策上、必要な配備であると考えている。原子力空母についても、日本の防衛のため容認すべきであるし、市民に危険性などの不利益になることはないと感じている。(50代女性)
- 放射性物質の守りはかなり頑丈だと聞きます。確認しようがないですが、可能な範囲で公表して市民に安心感を与えて欲しいです。(50代男性)
- 日米が協力し合って街が成り立っているし、私達があれこれ言うよりも危険性などを十分分かっている人達が最善の対策をしていると私は思う。(40代女性)

不十分

- 原子力空母の賛否を考える前に安全に管理できるかが課題だと感じます。(40代男性)
- 原子力空母は原発を積んだ空母という性格なので、原発部分に事故があった場合には、横須賀市内だけでなく広い範囲が危険にさらされる、ということが十分認識されていない。(70代男性)
- 安全性や市民に対する説明など何もかもが不十分で、米軍や日本政府はもちろんのこと、横須賀市に対しても不信感でいっぱいだ。(40代男性)
- 事故が起きてからでは遅いです。(70代女性)
- 避難訓練を実施しているのは

知っていたが、被爆圏内に住んでいても私は実際どのように避難したら良いのか全く解らない。(70代女性)

- 危険と隣り合わせの現状を心配している。(70代)

- 市の対応がはっきりしない。原子炉の危険性。(70代男性)

- 動力を原子力にすると破壊された時にどうなるかは誰でも分かる話。そのものが核兵器になり、抑止力にはならない。(40代女性)

- あまりニュースに取り上げられていないが、国民に対して原子力空母の安全対策についての説明が必要で、野党は政府にきっちりとした説明を求めなければならないと思う。(60代男性)

- 不安、心配、怖い気持ちでいっぱい。配備が仕方ないのであれば万が一の時の対策と市民への周知を進めてほしい。ほかにも市内には原子力関連施設があるから、私たち市民も考えをしっかりとって知識を学ばねばならないと思う。(60代女性)

- 原子力空母に起因する原子力災害(事故)に対し、米軍、日本政府、横須賀市がどのような対策を取っているか分からない。対策を講じ、周知する必要がある。共済病院、市民病院にヨウ素剤を備蓄していると聞いたことがあるが、各戸にあらかじめ配布する等しないと、緊急時にどの程度対応できるか不安を感じる。(30代男性)

- 先日ドローンで撮影されたこともあり、安全性への懸念がある。(40代男性)

- 安全対策を頻繁にチェックするべき。(30代女性)

わからない

- 最近の世界情勢が不安定なので空母の安全が担保されれば賛成です。(20代男性)

- 日本は自国が強いと思い込みアメリカと戦争をした。終戦時は7歳だった。日本政府は安全対策は考えていると思う。(80代男性)

- 事故を起こすつもりはないだろうが可能性としては0ではない。起こればその影響は大変なものになる。(70代男性)

- 情報が少なく、分からない。(40代女性)

- 横須賀市の安全対策の内容が知りたい。他都市の安全対策も知りたい。横須賀市近隣の市民は知っているのか?(60代男性)

- 不慮の事故が起きた場合の具体的なシミュレーションはあるのか、市民に知らされていない。それはなぜだろうか?(60代男性)

原子力空母、横須賀配備の是非

賛成

- 現在の世界情勢を見るとやむをえないと思うし、防御力は必要と思う。(70代男性)
- 横須賀市の経済効果に大いに寄与している。(30代女性)
- 抑止力として海自プラスアルファとして重要であり、海上防衛上最も必要な艦であると認識している。(70代男性)
- 米国と上手くやっていって欲しい。(80代男性)
- 安保条約があるので配備は仕方ない。(70代男性)
- 日本の防衛上必要な配備であり、それを承知の上で横須賀に住居しているので反対する理由はない。無理に隠さず、必要最低限の情報公開(軍事上の機密は除く)を行うことで地元の理解は得られると思う。(50代男性)
- 日本の国防のためにはあった方がいい。(10代男性)
- 米軍がいることで抑止力に繋がっているから。(20代男性)
- 放射能が漏れた場合には大規模な事故になり横須賀にも住めなくなるだろうということは知っている。でも、ここで生まれ育ち、米軍基地があることで糧を得ている。自然災害だって避けることはできない。仕方ない、運もあると思っている。(60代女性)
- 本音は反対であるが、安全保障上、どこかの自治体が引き受ける必要があり仕方がない。また米軍が雇用創出の機会にもなってい

る。(50代男性)

- もっと米軍と横須賀市の交流を盛んにして、お互いに良い影響を与え合っていたらと思う。(60代女性)
- 残念ながら横須賀に米軍の基地があり、最新鋭の軍備が抑止力になっていることは認めなければならない。いずれ、そんなものが必要ない世界になるよういろいろな方面から努力をしていくことが重要と思う。(60代男性)
- 今のところ特に問題無さそうだから。(20代女性)
- 原子力空母がいることで安心している。(10代男性)
- エネルギー面で優れた原子力空母は抑止力としては必要だと思う。(40代男性)
- 自分に関係ないから賛成。(10代男性)
- 観光名所になり地域が活性化し、防衛に貢献している。(30代女性)
- 地政学的に、配置は理にかなっていて、原子力ということでなぜ問題があるか、わからない。(40代男性)
- アメリカに対して毅然とした態度でダメなものダメとハッキリと云える事が肝心。何でもアメリカの言いなりになっている様にしか思えない。良きパートナーであるからこそハッキリと断るべき事は断る事が大事であろう。(70代男性)
- 東京湾内という人口密集地での

原子力空母事故による放射能漏れ、一次冷却水の大量放出等「核事故」への不安があり、反対です。(40代男性)

- 市民の目線で考えると、横須賀基地で原子力空母が事故を起こす可能性も考えられ、福島第一原発の惨劇を思い出させるので反対です。(20代男性)
- 米軍が情報を開示していないのが大変不満。市民を危険におとし入れる原子力空母の母港化に絶対反対。(70代男性)
- 日本に配備することはよくない。原発と同じ。(90代男性)
- 小さい子供もいるし怖い。(20代女性)
- 原子力艦事故は起きないという前提での防災訓練や安定ヨウ素剤の備蓄対応になっている。市民の安心安全を守るために原子力艦船は横須賀に来ないでほしい。(60代男性)
- 広島・長崎、3.11の福島を経験し危なさが分かったはず。原子力反対の立場で世界と対峙するしかない。(50代男性)
- 事故につながる可能性、大規模な被害が出る可能性があると感じる。(20代女性)
- いつまでもアメリカにたよるのはよくない。(70代男性)
- 忌野清志郎が原子力は危ないと言っていた。自分も反対する。(50代男性)
- 原子力は人間の力では制御できないので反対。(70代男性)
- 敗戦国だから日本の立場は難しい。戦争反対。(70代女性)

反対

- 声に出して言えないが、イヤですね。(80代女性)
- 空母をはじめとする原子力艦船の配備に反対。自衛隊を含む基地撤去が必要。軍転法の理念が尊重されるべき。市長の対応に問題ありと考える。(70代男性)
- 米軍の司令部があるのだから1番先に狙われる。平和は話し合いで勝ち取るもの。外交が大切。(80代女性)

どちらとも言えない

- 横須賀市民に説明する場を設けて欲しい。それから賛否を判断したい。(50代女性)
- きちんと情報を開示しているなら、反対することはないと思います。(60代男性)
- 必要性はわかっているが、何か抵抗がある。それをうまく言語化できない。(20代女性)
- 生活が脅かされないならいい。(50代女性)
- 日本の防衛を各地で負担するのは理解できる。沖縄だけ大きく負担しているのは国民として恥ずかしい。(70代女性)
- 現在の世界情勢からすると、致し方ありません。(40代男性)
- 個人の生活感覚だけで答えるわけにはいかない。(60代男性)
- 配備で抑止効果があると思う一方で標的になりやすい。敗戦国である日本の安全保障だと考える。ロシア・中国などの脅威に晒され続けている。また気象や地形を含めて日本列島の宿命ではないだろうか。(60代男性)
- 原子力そのものの賛否はあるが、ある程度高度な軍事力があることは防衛上必要だと思う。(40代男性)
- なぜ必要なのかを説明したうえで安全対策をしっかりとしてほしい。配備の賛否はそのうえで考えたい。(50代男性)
- 空母が来ることで利益が得られるお店があるから一概に悪いとは言えない。(30代女性)
- 横須賀の町が有名になったのは原子力空母のおかげなので完全に反対とまでは言いきれないが、できればない方がいい。(50代男性)
- 日本を守ってくれるなら。戦禍に巻き込まれるのは嫌だ。日米安保を思えば仕方ないのかな。(80代女性)
- 横須賀に置かれることについて周知されていない不信感がある。(20代女性)
- 日米同盟は幻想。自分達で防御する術がなければ攻撃されても人命を守ることはできない。戦争が起きることのない世界にすることが大前提だが、国連が機能せず武器を使いたがる国家元首が暴挙をふるう現実がある以上、自分達の国は自分達で自衛できなければならないと思う。世界平和と自衛、どちらも重要。世界が平和を取り戻すことを切に願う。(40代女性)
- 抑止力になっているとも思うが、その件について日頃はほとんど考えてはおらず、横須賀に見物客が増えるといいと思っている。(50代女性)
- 戦争のない世界、ありえないのかなあ。(60代男性)
- 日米安全保障の強化に寄与すると思う。海上防衛、平和維持につながるとも思う。一方で、原子力空母の駐留で環境への懸念や観光リスク、原子力の運用や廃棄物処理による放射性物質のリスクがある。(30代男性)
- 国防上有用だと思うが米兵による事件など看過できない。核の標的にされる懸念があり、事故の際の情報統制なども不安。収入源をベース頼みにしている市民もいる。(50代男性)
- 万が一に備えて家に薬を用意しています。第2次大戦に負けたので仕方がないと思う反面、ベースに勤めて生活している人も多いので本音は複雑です。(50代女性)
- 世界情勢から鑑みると空母も必要と思うが、市民にもう少し情報がほしい。(10代男性)
- 知らなかった。もっと勉強して理解してから賛否を回答したい。(30代女性)
- 何も知らなかった。調べてみる。(10代男性)
- 原子力はいいものではないと思う。配備にちゃんとした理由があるなら市民に伝えるべきだ。(10代女性)

要望・提案・感想

●市民の声をもっと聞いてほしい。
(60代女性)

●勉強していきたい。子どもにしっかりと説明できるようになりたい。
(40代女性)

●各地の米軍基地からPFAS等が検出されている報道があります。私は海産物が好きなので(走水海苔や地魚など)、海の汚染が心配です。どうして米軍に強行に対応できないのでしょうか。(70代女性)

●放射能の恐ろしさを経験している日本。事故が絶対おきないと言う保証はない。原子力空母について全市民が理解し納得できる対策を即公開してほしい。(80代女性)

●具体的に何が危険なのか、法的にどこが問題なのか、配備を断ることのできる可能性があるのか知りたい。(60代女性)

●身近な問題なのにどこか遠いところがあり、それは反省しなければと思う(60代女性)

●米軍があることによって雇用など経済が回っている点もあるので空母と言うか米軍じたいに悪い印象はありません。(20代女性)

●不安に思いつつ、大丈夫と自分自身に思い込ませようとしている。
(70代女性)

●市民の意見を聞かずに空母を設置することが問題。話し合いの場を設けて今後のことを考えた方がいい。(20代男性)

●住民の反応がうすいのが不満。自分も一歩ふみだせないなのでこのようなアンケートに感謝している。
(80代女性)

●米軍基地で働いている。日本の

税金が多額に使われていて基地の中の米国人はいばっている。日本の従業員はペコペコしていやになる。年金で食べていけないので働いている。放射能に対する安全対策は不十分だと思う。(70代女性)

●基地の観光資源化はおかしい。
(40代男性)

●軍事より社会福祉や高齢者子ども関係にお金をかけて欲しい。(50代女性)

●小泉元総理が原発反対を唱えている。今一度お話を伺いたい。
(70代男性)

●配備されない事が可能なら、それに越した事はないが、日米安保条約もあるし、空母や基地関連の仕事で生計を立てている人もいるから、安全面の配慮を怠らず常に注意をしながら共存出来れば良いのではないかと思う。(50代男性)

●反対運動や署名を見かけるが、詳しいことを知らないので協力できない。興味がある人以外の多くの市民へ広く認知される機会があれば良いと思う。(40代女性)

●米軍と日本政府はどのように抑止力として軍を使うのか、もっとオープンに話し合ってその情報を一般人にも公開すべきだと思う。メリット、デメリットを開示したうえで国民が反対なのか賛成なのか意見を述べられるようにしたほうが良いと思う。(30代女性)

●原子力空母について、小学生や中学生も勉強し議論する必要がある。受験勉強ばかりでなく、日本をもっと知ることが必要だと思う。

(40代女性)

●私たち一般の生活者は原子力空母にしても、国の安全にしても、そもそもわかっていないと思う。そんなことではいけないと思うが、今の生活だけでも大変で頭がそこまで回らない。未来は良きものになりたいと思って生きてきたが、自分の人生だけでも下降線。

空母の話などをすると変な人扱いされてしまいそうな気がする。もう自由な発言ができない国という時代というか、そんな気もする。
(50代女性)

●横須賀市に住んではいるものの、そういう話は誰ともしないし、話題にあがらない。自分で情報を取るかとなると、かなり関心がないと動かない感じ。震災のように重大な事が起こらなければ、関心が向かない。市民たちが雑談のついでに、いろいろ話し合える場があるといい。(50代女性)

●原子力空母の安全性や配備までの討議内容、経緯などを明確に説明してほしい。(40代女性)

●市民は原子力空母に関心を持つべき。行政やマスコミはもっと情報発信の工夫が必要。(50代男性)

要請

市民アンケートの結果を踏まえて、 日本政府、在日米海軍司令部、横須賀市へ以下の要請を行いました。

令和6年9月23日
内閣総理大臣 岸田 文雄 殿
内閣府原子力防災担当政策統括官 殿

要 請 書

原子力空母母港化の是非を問う住民投票を成功させる会

1、今年2024年、原子力空母Rレーガンは米国に帰り、交代に次の原子力空母Gワシントンが横須賀に配備される予定ですが、この交代はあと約10年は横須賀で原子炉が稼働し続けるという新たな提案で、これに対する私達市民の意見が聞かれていません。

そこで住民投票を成功させる会では本年4月から6月に別紙1のと通りの原子力空母についての市民アンケートを行い、4094名から回答を得ました。(内横須賀市民は3485名)その回収種別、男女比、年齢構成は別紙1のとおりです。

また別紙2のとおり、意見を得ました。

2、このアンケート結果は、以下のとおり分析、評価できません。

(1) 横須賀に原子力空母が配備されているを知っているか、につき配備後16年がたち、知らないという10代の人が78.2%と多い。

(2) 原子力空母に対する安全対策をどう思うか、につき、わからないが約半数を占め、不十分と合わせると、8割を超える。配備後13年がたったにも係わらず、市民への情報提供が不足していることの現れと言えよう。

(3) 横須賀に原子力空母が配備されていることについてどう思うか、につき、どちらともいえないが最も多い点に、横須賀市民の複雑な心情が現れている。

次いで反対が、賛成より多い。(別紙2の意見も参照)

3、以上の市民アンケート結果を踏まえ、私達は内閣総理大臣及び内閣府防災担当に、以下の事項を強く求めます。

●原発では全ての事故及びトラブル情報が、国民に公開されているのに対して、原子力空母の原子炉については、

安全性を検証するための設計情報も、運転情報も、事故及びトラブル情報も、全く国民に提供されていません。また米国内の原子力艦原子炉修理の造船所では、多くの事故、放射能漏れが発生していることが明らかになっていますが、昨年の原子力空母レーガンの7回の出航延期の原因が原子炉トラブルか否かについての情報、原子炉修理作業中の放射能漏れ情報等が公開されず、明らかになっていません。

市民の安心安全のため、これら原子力艦の原子炉に関するあらゆる情報を公開して、日本政府と共有し、市民に対して報告、説明するよう、米国、米海軍に求めて下さい。

●原発では、周辺30キロ以内の地域で、重点的な防災訓練等の対策が実施されているのに、原子力空母では、米海軍との日米合同訓練では、最悪の事故が想定されず極めて軽微な想定であり、横須賀市の原子力艦事故地域防災訓練でも、たった3キロ以内という過少な被害想定のため、3キロ以内という一部の市民を対象としてしか、防災訓練が行われていません。

米国政府に対して、原子力艦の原子炉についての情報開示を求めることとともに、横須賀市と一元的な最悪の事故を想定した原子力艦事故対策訓練を実施するよう求めて下さい。

また横須賀市の原子力艦事故地域防災訓練でも、原発並の防災訓練等の対策をとれるよう、原子力艦の原子力災害対策マニュアルを改訂して下さい。

要請

令和6年8月23日
在日米海軍司令官 イアン・ジョンソン少将

要 請 書

原子力空母母港化の是非を問う住民投票を成功させる会
共同代表 呉東正彦

親愛なるイアン・ジョンソン様

私は、米国の原子力空母が配備されていた米海軍横須賀基地のある横須賀市民を中心とする市民団体の共同代表です。

2015年に米海軍横須賀基地に配備されていた原子力空母ロナルド・レーガンが今年夏に米国に帰りましたが、それと交代に原子力空母ジョージ・ワシントンが、この秋に横須賀に配備されようとしており、これは原発再稼働に匹敵する重大な提案です。

原子力空母母港化の是非を問う住民投票を成功させる会は、この原子力空母交代に対して、この4月から6月まで横須賀市民を中心とする市民アンケートを行い、約3500名の横須賀市民の回答につき、以下の結果でした。

1、横須賀に原子力空母が配備されているを知っていますか？

知っていたが、70.9パーセント、知らなかったが29.1パーセント

2、原子力空母に関する米軍・日本政府や横須賀市の安全対策をどう思いますか？

十分が16.9パーセント、不十分が34.3パーセント、わからないが48.8パーセント

3、横須賀に原子力空母が配備されていることについて、どう思いますか？

賛成が23.8パーセント、反対が30.1パーセント、どちらともいえないが46.1パーセント

原子力空母の配備について、相対的には反対が、賛成より多く、どちらともいえないとの回答者でも、原子力空母の原子炉の情報が不十分で不安をもっている意見が多数あり、多くの市民が原子力空母の継続配備を無条件で容認しているわけではありません。

そこでこの市民アンケート結果を踏まえ、以下のとおり要請いたしますので、これらについて、私宛ご回答をお願い

いたします。

1、原子力空母に対する安全対策をどう思うか、につき、わからないが約半数を占め、不十分と合わせると8割を超えており、原子力空母配備に賛成、反対の回答者を通じて原子力空母の安全性及び安全対策は重大な関心事であり、原子炉の安全性に関する情報の少なさを指摘しています。

昨年9月の7回にわたる原子力空母レーガンの出航延期は、市民の間に原子炉の何らかのトラブルが原因なのではないかとの懸念を生じさせましたが、米海軍からは、そうであるかないか、も含めて、全く原因につき情報の提供がありませんでした。

米海軍として、上記も含め、原子力空母の原子炉の安全性について、より具体的な情報提供をするとともに、地元市民向けの原子力空母の安全性についての説明会を開催して下さい。

2、現在、原子力空母事故対策訓練は、地元横須賀市民が参加するものと、米海軍が参加するものが別々に開催され、その不十分性が指摘されています。

一元的な原子力空母事故対策訓練が開催されるよう、最悪の事故を想定した地元横須賀市民が参加する横須賀市の原子力空母事故対策訓練に米海軍も参加して下さい。

要請

令和6年9月25日
横須賀市長・上地克明殿
危機管理課御中／国際交流課基地政策担当御中
横須賀市教育委員会御中

要 請 書

原子力空母母港化の是非を問う住民投票を成功させる会

1、今年2024年、原子力空母Rレーガンは米国に帰り、交代に次の原子力空母Gワシントンが横須賀に配備される予定ですが、この交代はあと約10年は横須賀で原子炉が稼働し続けるという新たな提案で、これに対する私達市民の意見が聞かれていません。

そこで住民投票を成功させる会では本年4月から6月に原子力空母についての市民アンケートを行い、4094名から別紙1のとおり回答を得ました。(内横須賀市民は3485名)その回収種別、男女比、年齢構成は別紙1のとおりです。また別紙2のとおり、意見を得ました。

2、アンケート結果は、以下のとおり分析、評価できます。

(1) 横須賀に原子力空母が配備されているを知っているか、につき配備後16年がたち、知らないという10代の人が78.2%と多い。

(2) 原子力空母に対する安全対策をどう思うか、につき、わからないが約半数を占め、不十分と合わせると、8割を超える。配備後16年がたったにも係わらず、市民への情報提供が不足していることの現れと言えよう。

(3) 横須賀に原子力空母が配備されていることについてどう思うか、につき、どちらともいえないが最も多い点に、横須賀市民の複雑な心情が現れている。

次いで反対が、賛成より多い。(別紙2の意見も参照)

3、以上の市民アンケート結果を踏まえ、私達は横須賀市長及び各部局に対して、以下の事項を強く求めます。

●原発では全ての事故及びトラブル情報が、国民に公開されているのに対して、原子力空母の原子炉については、安全性を検証するための設計情報も、運転情報も、事故及びトラブル情報も、全く国民に提供されていません。また米国内の原子力艦原子炉修理の造船所では、多くの事故、放射能漏れが発生していることが明らかになっていますが、昨年原子力空母レーガンの7回の出航延期の原因が原子炉トラブルか否かについての情報、原子炉修理作業中の放射能漏れ情報等が公開されず、明らかになっていません。

市民の安心安全のため、これら原子力艦の原子炉に関

するあらゆる情報を公開して横須賀市と共有するよう、また市民に対して報告、説明するよう、米海軍及び国に求めて下さい。

●原発では、周辺30キロ以内の地域で、重点的な防災訓練等の対策が実施されているのに、原子力空母ではたった3キロ以内という過少な被害想定のため、現在3キロ以内という一部の市民を対象としてしか、防災訓練が行われていません。

国に対して、米国政府に対して原子力艦の原子炉についての情報開示を求めることとともに、原子力艦の原子力災害対策マニュアルを改訂し、原発並の防災訓練等の対策をとれるよう求めて下さい。

●横須賀市独自でも、横須賀市地域防災基本計画で、全市域が原子力艦放射能事故防災 対策区域となっており、O I Lによって全市域が避難等の対象となりうるのですから、防災訓練対象地域を拡大するとともに、全市民を対象とした原子力艦放射能事故対策についての広報、周知対策をとって下さい。

●今年の横須賀市原子力艦事故地域防災訓練、日米合同原子力艦事故防災訓練は、いつ開催される予定でしょうか。

多くの原子力空母の原子炉への不安をもつ市民の声を踏まえ、日米合同原子力艦事故防災訓練において、深刻な事故を想定したよりリアルな想定とするなど新しい取組を加えるとともに、横須賀市原子力艦事故地域防災訓練においてもより多くの市民の参加、土日の実施、3キロ以遠への避難訓練、被曝医療訓練等の新しい取組を加えて下さい。また地域集会で多くの意見のあった、ヨウ素剤の事前配付を検討、実施して下さい。

●10代の市民の78.2%が、原子力空母の配備を知らないという結果につき、これでは万一の原子力空母の放射能事故の際、若者が何も知らないまま置き去りにされてしまいます。

小中学校教育の中で、全生徒を対象に、横須賀を米海軍の原子力空母が母港としており、万一の放射能事故のおそれがあり、それについて何をすべきかについて単なる原子力事故対策資料の配付に止めずに、きちんと時間をとってカリキュラム化して学習させ周知させて下さい。

●現在統廃合の対象とされている田浦小、そして今後統廃合の対象とされる可能性のある逸見小、沢山小、汐入小は原子力艦放射能事故の3キロの防災対策範囲内にあり、避難の集合場所、ヨウ素剤の配付場所となっていますが、統廃合された後、当該地区の住民は原子力艦放射能事故の際、どうすればよいのでしょうか。

原子力空母 考えて

横須賀 市民団体がキャンペーン開始



原子力空母配備に関するキャンペーンについて説明する市民団体メンバーら
＝横須賀市役所

米海軍横須賀基地（横須賀市）に配備されている原子力空母が今年交代するのを巡り、市内の市民団体が原子力空母配備について改めて市民に考えてもらおうとキャンペーン活動を始める。市民と意見交換する地域集会の開催や3千人規模の市民アンケートの実施などを予定し、皮切りとなるキックオフ集会を21日に開く。市民団体は「これまで原子力空母配備について市民の意思が聞かれていない。多くの市民の声を集め、それを広げたい」と話している。（鈴木 昌紹）

関連記事

キャンペーンを展開するのは「原子力空母母港化の是非を問う住民投票を成功させる会」。これまで原子力空母母港化の是非を問う住民投票条例の実現に向けた署名活動や、市民1万人アンケートなど原子力空母配備問題に取り組んできた。同基地では2015年から配備されている原子力空母ロナルド・レーガンが今年後半にも、大規模改修された原子力空母ジョージ・ワシントンに交代する。同会は原子力空母配備について「これまで市民の意見を聞かずに配備が続いている」と指摘し、横須賀での母港「恒久化」を危惧する。配備問題について市民に知ってもらうとともに、市民がどう考えているのかを把握するため今回のキャンペーンを企画した。具体的活動として、市内5カ所を地域集会を開く。空母交代について解説するほか、市の危機管理担当の職員を招いて原子力防災対策なども紹介する。そのほか各種団体とのミニ集会も開催したいとしている。市民アンケートは3～6月、市内各駅頭での聞き取りやインターネッ

交代機に市民の声集約 あす会



米海軍横須賀基地に配備されている原子力空母ロナルド・レーガン
＝2023年11月、横須賀市

ト上での調査などで3千人を目標に実施。原子力空母配備の是非や、安全対策を知っているかなどを聞くアンケート結果は空母交代前に公表する。地域情報紙に半年間、意見広告も出し、配備問題について広く周知する。キックオフ集会は21日午後1時半から市生涯学習センター（同市西逸見町）で開く。キャンペーンの趣旨説明や今後の活動について話し合う。同会共同代表の新倉裕史さんは「ぜひ交代を機に原子力空母配備をもう一度考えてほしい」とキャンペーンの参加を呼びかけている。問い合わせは、同会（横須賀市市民法律事務所内） ☎046（827）2713。

タウンニュース・横須賀・三浦版、2024・8・30

原子力空母配備

賛否「どちらとも」が46%

市民団体が調査報告

米海軍横須賀基地に配備されている原子力空母が今年中に交代することに関して、「原子力空母母港化の是非を問う住民投票を成功させる会」は8月24日、配備の是非を問うアンケート調査の結果を報告する集会を横須賀市総合福祉会館で開いた。賛否については「どちらともいえない」が46・1%で最も多く、賛成は23・8%、反対は30・1%だった。アンケートは今年4月から6月の間に街頭インタビューやビュウ調査会社などを利用して実施。内容は①横須賀に原子力空母が配備されていることを知っているか②米軍・日本政府・横須賀市の安全対策は十分か③横須賀への配備についてどう思うかの3項目を問うもので、合計4230人（うち横須賀市民3614人）が回答した。

「判断材料が不足」

配備の賛否について問う③では、半数近くが「どちらともいえない」と回答。これに対し同会共同代表の呉東正彦弁護士はその中の「判断材料が不十分」とする意見に着目した。米国内の造船所では放射能漏れなどの事故が発生している一方で、日本国内でのトラブルは情報が公開されずラックボックス化していることを踏まえ、「市民に危険性が周知されにくい構造となっている」と分析した。

また、①では10代の78・2%が「知らなかった」と回答（全体では29・1%）。呉東氏は「原子力空母に関する市の防災対策や教育も限定的で、むしろ観光資源化しようとする政策が安全上の問題を無関心化させているのではないかと市の姿勢に疑問を投げかける。横須賀に初めて配備された2008年頃は住民投票直接請求運動に当時の市長や議会も関わり、社会問題として議論されていたが、配備から16年経ったことで、「母港化が既成事実化しているのでは」という記述も見られた。

呉東氏は「身近な場所に原子力炉があることを、特に若い世代に知ってもらう、考えてもらうための活動を続けていきたい」と今後の方針を示した。

横須賀基地・原子力空母再配備

「賛成」23.8% 「反対」30.1%

市民調査

米海軍横須賀基地(横須賀市)に22日、原子力空母ジョージ・ワシントン(全長333m)が再配備される。5月に同型艦ロナルド・レーガンが米本土へ帰還したことに伴う交代。ワシントンは2008〜15年に国内で初めての原子力空母として横須賀基地に配備されていた。横須賀市の市民団体は今春、再配備に関する市民アンケートを実施している。市民団体は「原子力空母母港化の是非を問う住民投票を成功させる会」。アンケートは4〜6月、街頭での聞き取り調査を中心に行われ、4230人(うち横須賀市民3614人)が回答した。

「横須賀に原子力空母が配備されていることを知っているか」について、「知っている」は70.9%、「知らない」は29.1%を大幅に上回った。「配備されていることをどう思うか」では「どちらとも言えない」が46.1%で最も多かった。「賛成」は23.8%、「反対」は30.1%だった。

「米軍・日本政府・横須賀市の安全対策をどう思うか」の問いには、「分からない」が48.8%で最多。「十分に反対」は16.9%、「不十分」は34.3%で不十分は、「分からない」の2倍に達した。

同会共同代表の新倉裕史さん(76)は「レーガン入港前の2015年に行った約1万人へのアンケートでは『配備に反対』は49.7%だった。今回は約20%

減り、『配備に賛成』は15年の13.7%より約10%増えている」と指摘。「配備賛成の意見記入欄では、『抑止力として必要』に次いで『もう慣れた・しかたがない』が多く、基地の街・横須賀の複雑な心情も読み取れる。米国からの原子力の技術データなど情報提供が不十分で、よく分からない市民も多いのではないかと引き続き情報公開を求めたい」と話した。

【福沢光一】意見が最多の約3割で、配備に賛成する理由として抑止力に言及するものが2割超だった。こうした結果について、同会共同代表の呉東正彦弁護士は「原子力空母の配備から16年。母港化の既成事実がある程度進んでいる」とみる。そのうえで「母港化を無条件に容認しているのではなく、抑止力としてやむを得ず受け入れられている市民も少なくない。複雑な心境が表れている」と分析する。(具志堅直)

朝日新聞、2024・11・23

「どちらともいえない」45.9%

空母配備 賛否問う

市民団体がアンケート

横須賀配備の原子力空母をめぐっては、地元の市民団体「原子力空母母港化の是非を問う住民投票を成功させる会」が4〜6月、街頭での聞き取りを中心に、配備の賛否を問うアンケートを実施した。市内在住者3485人が回答し、「賛成」22.6%、「反対」31.4%、「どちらともいえない」45.9%だった。

「知っていた」68.6%、「知らなかった」31.4%で、米軍・日本政府・横須賀市の安全対策をどう思うかについては、「わからない」49.3%、「不十分」34.5%、「十分」16.2%だった。

多くの人が記入した自由記述欄の内容を分類し、順位付けしたところ、原子力空母に対する安全性の確認を求める

2024
キャンペーン
スナップ



2024キャンペーン アンケートご協力ありがとうございます

「原子力空母母港化の是非を問う住民投票を成功させる会」について

●2006年、住民の安全に影響を及ぼす原子力空母の母港化は、市民の声を聞いた上で判断すべきとして、横須賀市に対し住民投票の実施を求めるために発足。2度の住民投票条例の直接請求を行う。2008年の原子力空母母港化後も継続して、市・県・国に対し、母港化の是非と安全性について問い続けています。



連絡先 〒238-0008 横須賀市大滝町1-26 清水ビル3階
横須賀市民法律事務所方 電話:046-827-2713

原子力空母ひとくち知識

25年分の死の灰
原発の燃料交換は1年に1回。溜まる死の灰は最大1年分です。原子力空母の燃料交換は25年に1回。溜まる死の灰は最大25年分です。

爆弾やジェット燃料も
原発周辺には、爆発物貯蔵庫や燃料タンクを作ることにはできません。しかし原子力空母は、艦内の至近距離に、大量の爆弾やジェット燃料を積んでいます。

高濃度の燃料棒
原発の核燃料のウラン235の濃縮度は3〜5%。これに対して、原子力空母の核燃料ウラン235の濃縮度は約95%で、原爆並の高さです。

安全審査なしで配備
原発は日本政府の厳しい安全審査を受けています。それでも事故は起きました。原子力空母は、その安全審査すら受けていない、まったくのノーチェック状態です。

3.11 原子力空母は
星条旗新聞は「水位は6フィート(183cm)下がり、揺れは非常に強くて船を埠頭岸壁から離すほどだった」と乗組員の証言を伝えています。大規模地震が基地を直撃すれば、原子力空母の原子炉も決して安全ではありません。

動かなかった非常用復水器
米海軍は、原子力空母には電力に頼らず自然対流で原子炉を冷却できる能力があると言います。非常用復水器と呼ばれるものですが、福島原発1号機にも同様の装置がありました。が、メルトダウンを食い止めることはできませんでした。

問題は一度も市民の意見が聞かれないまま原子力空母の配備が続いている、ということです。3,000人市民アンケートによって集まった「市民の声」を集計し、横須賀市・日米両政府に届けます。

